

# 平成29年度前期学校評価・学校振り返りアンケート の分析結果について

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/matsuo-s/>

平成 29 年 11 月 10 日

京都市立松尾小学校

校 長 松井 靖至

先日は、平成 29 年度前期学校評価に御協力いただきありがとうございました。同時期に、子ども達には、学校振り返りアンケートを実施いたしました。その結果の主たるものについて、報告させていただきます。また結果の詳細については、松尾小学校のホームページ右側にある『学校評価』にアップしています。お時間があるときにご覧ください。

## ○学校評価と学校振り返りアンケートの結果からみる主な特徴

全体を通して、前年度よりもほとんどの項目で「出来ている」割合が増えていました。また、今年度はすべての項目で「わからない」という回答が減っていて、学校の取組や学年・学級の様子がしっかりと伝わっているように感じられました。



### ◆保護者自由記述より

「今、子ども達に必要な力（こと）は何ですか。」

#### 1. 自分自身に関わること

- ・自分のことは、自分でやりきれぬ力 ・先のことを見通し、自分で考え、行動すること
- ・あきらめない心、失敗を乗り越えようと目標に向かって努力、挑戦する力
- ・周囲に流されず、生活したり判断したりする力 …等

#### 2. 友達や家族、周りの人との関わり

- ・自分はもちろん、友達や周りの人を大切にすること、気遣えること
- ・お互いの個性を認め合い、尊重し合える心をもつこと
- ・相手の気持ちを想像する力、そして行動を起こせる力 …等

#### 3. コミュニケーション能力に関わること

- ・話をしっかりと聞く力、そして自分の思いを言葉にして表現する力
- ・語彙力や理解力を増やし、会話力を高めること ・いろいろな人に関わり合える力 …等

多かった意見を3つのグループにまとめました。『今、必要な力』とは、『現状でできていないこと』とも言えます。「もっと苦手なことにも挑戦してほしいなあ。」「もっと友達を優しくすればいいのに…。」「よく話すけど、いまいち何がしたいのかよく伝わっていない。」という声も、聞こえてきそうです。

他にも、

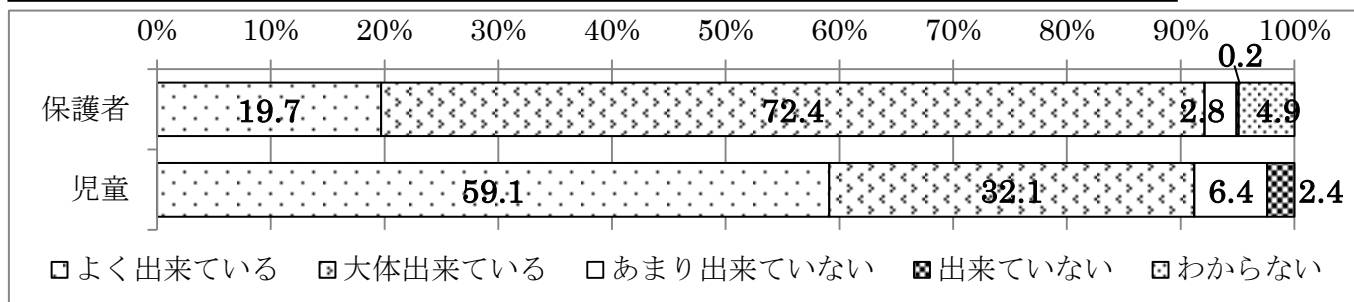
- ・危険に対する状況判断力などの「安全に関すること」
- ・進んで元気よく体を動かすこと、体力を身に付けるなどの「健やかな身体に関すること」
- ・人が見ていないところでも、善悪を判断し、正しい行動のできる力などの「きまりや約束に関すること」
- ・失敗をする経験、安心して失敗できる環境
- ・学力（読解力、応用力、問題解決能力、英語力、プログラミング能力…） …など

など、たくさんの貴重なご意見をいただきました。本当にありがとうございました。今後の学校が目指すべき目標として、参考にさせて頂きたいと思います。

## ◆こころの教育について

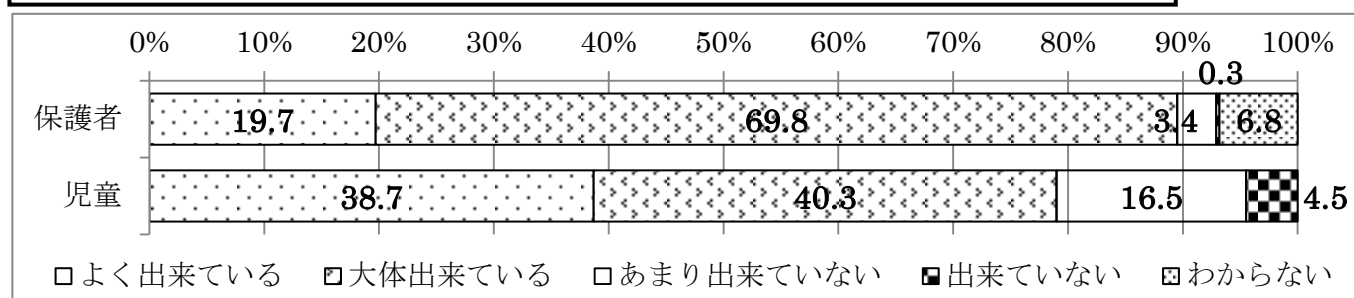
①学校は、一人一人を大切にする教育を行っている。(保護者)

①学校に行くのは、楽しいですか。(児童)



②学校は、子どもの悩みや相談に適切に対応しようとしている。(保護者)

②あなたが思っていることを、先生や友達に話せていますか。(児童)



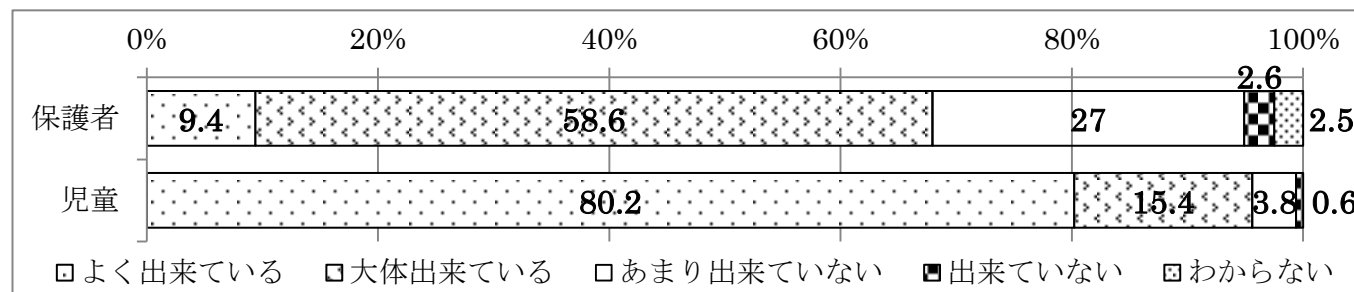
①、②(保護者)については、年々増加傾向にあり、昨年よりも約6%、一昨年の結果よりも11%程度増えており、児童・保護者に対して学校が適切に対応し、悩みを相談しやすい環境が整ってきていることが分かります。ただし、児童については、自分の思いを相手に伝えるという部分で若干の落ち込みが見られ、今後の課題として、よりいっそう安心して生活できる学校環境づくりを心掛けていきたいと考えています。



また、今年度◆こころの教育に関するものの中に新たに追加した項目として下記の⑤があり、その結果は、

⑤我が子は自分に自信をもって行動することができている。(保護者)

⑤得意なことやがんばっていることはありますか。(児童)



となり、保護者と児童との差が大きく感じられました。およそ95%の児童が得意なことやがんばっていることがあると答えた一方で、保護者から見て、自信をもって行動しているという意見は68%という結果になっています。この児童と保護者の差約30%には、保護者の方にいただいた自由記述にもあるように、「先を見通す」「失敗を恐れず挑戦する」といった、もっとこうなってほしいという思いも込められているように思います。

◆児童自由記述より

「松尾小学校のみんなで、学校をもっと良くするために、がんばりたいことは何ですか。」

【低学年】

1. 自分から挨拶をして、笑顔の多い明るい学校にしたい。
2. 廊下や階段を走らない、右側通行をしっかりとる。
3. 約束やきまりをしっかりと守る。
4. 友だちに優しくする。大切にしたい。いじめをしない。相手の気持ちを考える。
5. 協力したり助け合ったりして、みんなで1つになる。
6. 勉強をがんばる。
7. みんなで楽しく一緒に遊びたい。…等

【高学年】

1. 約束やきまりをしっかりと守る。
2. 自分から挨拶をして、笑顔の多い明るい学校にしたい。
3. 廊下や階段を走らない、右側通行をしっかりとる。
4. 勉強をがんばる。
5. 友だちに優しくする。大切にしたい。いじめをしない。相手の気持ちを考える。
6. みんなで楽しく、一緒に遊びたい。
7. 自分で良いこと、悪いことを判断して行動したい。…等

上記の児童自由記述を見てみると、がんばりたいという思いをもっている最も多かった3つの意見は、低学年も高学年も同じものであるということが分かりました。一方、振り返りアンケートの結果を見てみると、「よく出来ている」「大体出来ている」については、下記のような良い結果となっています。

	低学年		高学年	
	よく出来ている	大体出来ている	よく出来ている	大体出来ている
自分から「おはようございます」とあいさつをしていますか。	67.2%	22.9%	64.4%	28.3%
ろうかや階段では、走らず右側を歩くことができますか。	53.7%	37.1%	37.6%	46.9%
クラスや学校の約束は守っていますか。	60.0%	34.9%	40.6%	54.4%

『「できている」けれど、もっとがんばっていききたい。』のか、『「まだ不十分」だから、もっとがんばっていききたい。』のかは、今回の調査でははっきりわかりませんが、挨拶については、保護者から

	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	わからない
我が子は、自ら進んで挨拶しようとする態度が育っている。	13.3%	53%	29.1%	4.0%	0.6%

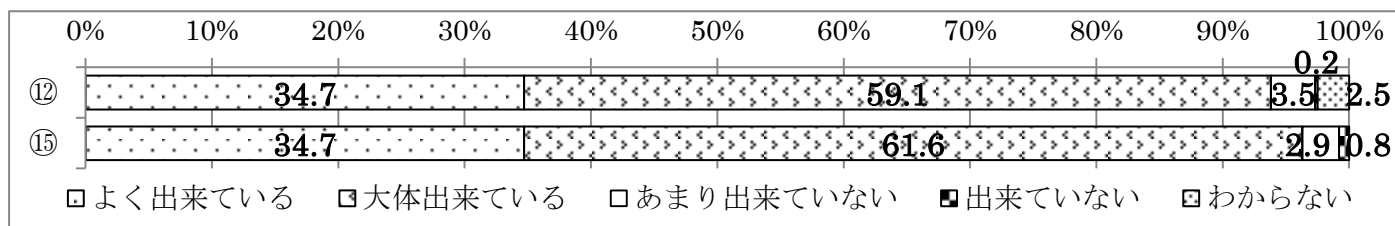
という厳しいご意見もいただいています。児童の「できている」基準と大人から見た「できている」の基準についても、差があるように思います。

子ども達のがんばりたいという思いを大切にしながら、どうすればもっと良くなるかの目標ラインを定め、より良い松尾小学校になるように、働きかけを行っていききたいと思います。

◎学校評価全体を通して良かったもの

⑫学校は、松尾小学校の子どもに豊かな体験をさせるため、地域と協力した取組を行っている。

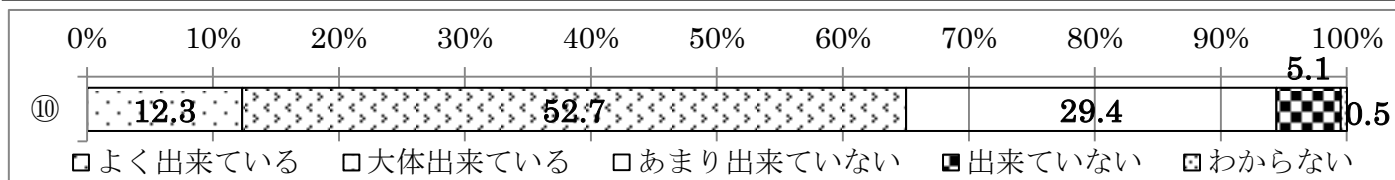
⑮学校は、学年・学校便りやホームページ等で、学校の教育方針・学校の様子を伝えることができています。



上記の2項目については、今年度新たに追加した項目ですが、どちらも良い結果をいただいています。今後も、地域と家庭と学校が連携しながら、子ども達を見守り、支えていければと思います。

◎学校評価全体を通して課題のあるもの

⑩我が子は、学習に意欲的である。



⑩に関しては、児童振り返りアンケート「⑩学校の勉強は分かりますか」「⑪家で宿題や勉強をがんばっていますか。」の項目で、「よく出来ている」「大体出来ている」の合計が、それぞれ低学年⑩92.7%，高学年⑩94.2%，低学年⑪93.6%，高学年⑪91.6%という結果から、保護者との結果の差が大きいことが分かります。授業参観や懇談会だけでなく、普段よく目にする家庭学習での姿でも、意欲的にがんばる姿を見ていただけるよう、学校全体で取り組んでいきたいと思っています。

<第二回学校運営協議会 アドバイザー 京都文教大学 永野貴子先生より>

松尾小学校は、学校と家庭、地域との距離が近い学校であることが、学校評価等の結果からよく分かる。しかし、まだ様々な課題や学校・保護者と子ども達との意識の差も見られる。

子ども達の発達段階は低学年と高学年で違いがある。例えば、低学年では、学校での姿と家庭の姿が変わらないが、学年が上がるごとに学校や家庭など場面に応じて違う自分を見せることがある。また、自信をもって取り組むという部分では、低学年はできると思ったらできる、しかし段々と隣の子と比べるようになり、比較しながらどうすることが良いのかを考えられるようになっていく。

このように場所や場面にに応じて違う自分を見せたり、周囲と自分とを比べたりすることは、悪いことではない。自分自身をコントロールするときと、開放するときの両方があって、その違いを自分で認知（知る）することが、子どもの成長につながっていく。

人は思いを口に出す、文字で書くといったことで、客観的に自分の考え方を振り返ることができる。子どもは、日々の学習の中や通知票といった形で、自分自身を振り返る機会が多いが、大人ほどそういった機会は少ない。思いを口に出す、文字で書くといった自分自身の振り返りは、子どもと向き合うときにも大切になる。

日々成長をする子ども達と過ごす中で、子どもの反応の振り返りを見て、大人も振り返りをするすることで、子ども目線での捉え方や考え方、悩みなどが客観的に分かるようになってくるのではないだろうか。